

爆同第55回 定期総会特集号

厚木爆同

【発行】
厚木基地爆音防止期成同盟
発行責任者 大波 修二
事務所 大和市桜森3-5-3
フロント1F
TEL 046-240-7450
FAX 046-261-5615
bakudou@kanagawa.email.ne.jp



新たな活動方針を決定し、さらなる団結を誓い合った第55回総会

厚木爆同第55回定期代議員総会を5月23日、大和市生涯学習センターで開催しました。総会では一年間の総括と活動方針を決定。安倍政権の「戦争法案」に反対するとともに、第四次厚木爆音訴訟に勝利し、平和で静かな生活環境を取りもどすため、なにより強く闘い続けることを誓い合いました。

II 激しさを増す爆音被害 II

総会は定刻の13時30分に始まり、執行部を代表して大波委員長が「安倍政権は戦争への道をひた走り続けている。こうした状況下で、厚木基地周辺の爆音被害はさらに増し、私たちの生活環境は破壊されている。厚木爆同は全国の仲間と連帯して戦争法案に反対し、平和で静かな空を取り戻そう。」と挨拶を行いました。

続いて来賓挨拶として、基地撤去をめざす県央共闘会議・中村副代表、第四次厚木爆音訴訟原告団・金子副団長、第四次厚木爆音訴訟弁護団・中野団長・福田副団長、社民党神奈川県連合・高橋副代表、神奈川平和運動センター・小原事務局長より連帯と激励の挨拶を行いました。

安倍政権の戦争法案に反対
爆音訴訟勝利を誓う総会
組織の高齢化も課題に

ただきました。

祝電披露に続いて、総会議長の指名があり、曾我代議員（海老名支部）を全体の拍手で決定。また総会事務局長、総会書記など大会役員を選出しました。

次に総会事務局より「総会代議員総数66名のうち、出席代議員・委任状は64名で総会構成人員を満たしている」との資格審査報告があり、議長が第55回定期総会の成立を宣言しました。

II 組織と活動の活性化 II

議事に入り、第一号議案「2014年度活動報告と活動総括」、第二号議案「2014年度一般会計・特別会計決算報告」会計監査報告が行われ、承認されました。

次に2015年度活動方針（案）

として、①航空機爆音の解消・オスプレイ飛来阻止・厚木基地機能強化反対、②集団的自衛権反対・憲法改悪阻止・特定秘密保護法と武器輸出緩和反対、③厚木爆音訴訟の支援強化、④NHK放送受信料全額免除、⑤地域宣伝行動の充実、⑥関連団体との連携強化と日常活動・専門部活動強化の取り組み、等が提案されました。

活動方針（案）に対する質疑討論では、代議員より「関係団体と

長年の献身的な活動を讃え

— 爆同功労者表彰 —



(写真左から) 功労者表彰を受賞した中川氏、平岡氏、村田氏、石塚氏

功労者表彰受賞者

- 中川 敦至 氏（大和中支部）
1978年～2014年（37年）
- 平岡 幸雄 氏（海老名支部）
1986年～2014年（29年）
- 村田 信之 氏（大和中支部）
1986年～2014年（29年）
- 石塚 長作 氏（大和中支部）
1993年～2014年（22年）

の諸活動も大切だが、爆同会員には高齢者も多く、地元での活動をどう強化するかが課題ではないか」「会員拡大とNHK受信料問題を市民に広げる運動の成果はどうか」「現在の活動には不十分な点もあるが、学習会や支部交流の活性化を図じ、組織強化と活動の充実を図っていく」との答弁を受け、満場の拍手で活動方針を決定しました。

次に2015年度一般会計予算（案）が提案され承認。役員選考委員会の提案があり、全体の拍手で決定しました。新役員・退任役員紹介と功労者表彰が行われ、最後に「爆音のない静かな空を取りもどすため、市民と連帯し力を合わせて頑張ろう」との総会宣言を決議し、大波委員長の音頭で力強く「団結ガンパロー」を三唱して、総会は成功裡に終了しました。

委員長挨拶要旨

基地強化につながる「戦争法案」

厚木爆同委員長 大波 修二

安倍内閣は戦争への道をひた走り続けています。また、厚木基地周辺の生活環境は酷いと言っているに過ぎません。米空母艦載機の爆音は私たちの生活環境を破壊し続けているからです。

この間の爆音による被害は、第四次厚木爆音訴訟の審理の中で原告証人尋問で陳述した前京大の松井教授



戦争法案反対を訴える大波委員長

自衛権行使に関する11の戦争法案。この法案が成立すると生活環境の悪化が避けられない状況になります。

厚木基地が更に強化拡大されるからです。夜間離着陸訓練が硫黄島ではなく、この厚木で行われる可能性も否定できなくなるからです。爆音で日常生活が寸断され精神と身体に大きな損傷を負うことになる可能性が大きくなります。更には墜落の危険が増大します。集団的自衛権が行使された時の戦争は、アメリカが起こした戦争に代表さ

横田基地には配備が実施されそうだと。安倍総理は集団的自衛権にしても基地問題でも、「絶対に心配はない」というが、絶対ということがわかっていくのか。一寸先は何が起きるかかわらないのが世の常である言葉の知見を広めてもらいたいものだ。このような無謀な計画を許さないためにも我々の行く道を定めなければならない。民が喜ばぬ国政は滅びるの格言をも

支部からこんにちは！

大和南2支部 上杉 和夫

この原稿を下書きしているこの日も、朝からのすごい爆音をたて、二機、三機と上空を飛び去って行く。空を飛ぶ物体は爆音だけではないさまざまな危険性を秘めている。今もハワイでオスプレイが着陸に失敗して、死亡者発生がテレビに放映されたが、

「行く道」を定める

とに、新会員拡大と無関心者に目を向けてもらう運動が必要だ。それには本部役員、地区リーダー役員の責務は大きい。リーダーは全てに優れていなければならないが、それはむずかしい。一番大切なことは、だれにも負けない熱意ではないか。リーダーにその情熱さえあれば、会員達はその熱意に共鳴して知恵ある者は知恵を、知識ある者は知識を、才覚ある者は才覚を発揮し目的達成に惜しみない力を出してくれるであろう。

《2015~2016年度》厚木爆同本部役員

役職	氏名	所属支部
委員長	大波 修二	大和北2支部
副委員長	高久 保(新)	座間支部
書記長	藤原 康夫(新)	大和北2支部
書記次長	石郷岡 忠男	綾瀬支部
総務部長	荻窪 幸一(兼務)	大和北1支部
組織部長	矢澤 洋二(兼務)	大和北1支部
情宣部長	斉藤 昌民	海老名支部
調査部長	谷沢 和夫	町田支部
会計(一般)	小野 抗夫(新)	大和北1支部
会計(特別)	小野 清輝(新)	大和北2支部
特別執行委員	藤田 栄治	第四次厚木爆音訴訟原告団団長
	相澤 義昭	第四次厚木爆音訴訟原告団事務局長
会計監査	山口 繁美	大和北2支部
	川村 政枝	綾瀬支部
顧問	浜崎 重信	大和北1支部
	真屋 求	大和中支部
	新倉 市造	綾瀬支部

沖縄は暑く県民の心も熱かったー15・15沖縄平和行進報告ー

例年は梅雨入りしている沖縄であるが、3日間とも強い日射しの中でおこなわれた。

5月14日(木)、第四次厚木爆音訴訟結審および報告集会後、四次訴訟団の高久保氏と沖縄・那覇空港へ向かう。5月15日(金)、瀬高の浜での平和行進出発式の会場から、大浦湾岸を

通ってキャンプ・シユワブへ向かう。昼食後、ゲート前で「埋め立て阻止！

座り込み行動」に参加。5月16日(土)、宜野湾市役所から平和行進は出発。神奈川の仲間には北ウイングで普天間基地を取り囲むように宜野湾市海浜公園屋外劇場まで行進。「集約集会」には2千6百人が参加。その後、神奈川平和運動センターは、独自行動とし世界一危険な普天間基地が一望できる嘉数台公園で、次に米軍のアジア・太平洋で最大の嘉手納基地が見える「道の駅」屋上からフィールドワークをおこなう。

5月17日(日)、「辺野古への新基地建設に反対する県民大会」に参加。「辺野古NO」「屈しない」のプラカードを掲げ、沖縄セルラースタジアムは外野席も含めて満席状態。翁長雄志知事の挨拶は感動的で、スタンディングオベーション(全員総立ち)で賛意を送った。3万5千人が参加。終了後、那覇空港から帰路につく。



35,000人が結集した「辺野古NO！」県民集会

(座間支部・中野渡 強志)